

享月

日

業庁

聞

# 心臓手術 伊に衛星生中継

## 学会に映像 質疑も交え

イタリアに中継するのは、角質化した冠動脈に「バルーン」という器具を挿入して広げる手術。一般に「風船療法」と呼ばれる。鈴木院長と、京都桂病院の加藤修心臓血管センター長、滋賀県立成人病センターの玉井秀男循環器センター長が、午後4時から執刀する。ミラノ市の学会会場では、各国の専門医ら2千人余が映像を見る予定だ。電話回線で手術室と会場を結び、3医師は手

術をしながら学会出席者に解説、質問に答える。日本の医師の技術は国際的に評価されており、中継はイタリアの医師から要請を受けた。鈴木院長は「論文などによる情報交換には時間がかかると。生中継だと、手術室での研修に近い効果が期待できる」と話している。同センターによると、国内の医療機関による風船治療の中継は10年ほど前に始まり、現在は年間20回ほど行われている。

同センターでは昨年11月から生中継の映像による勉強会を始め、各地から医師が集まっている。ネットワークが広がれば、国内外の専門医が映像を通して手術に携わることも可能になる。鈴木院長は「医師は常に新しい知識や技術を取り入れていく必要がある」と話している。

## 豊橋ハートセンター、あす

愛知県豊橋市大山町の循環器疾患専門医療機関「豊橋ハートセンター」(鈴木孝彦院長)は9日、院内で行う狭心症や心筋こうそくの手術の様子を、イタリアで開催中の国際学会の会場に衛星中継する。同センターは昨年秋からはほぼ毎月、手術の中継による学習会を開くなど映像通信技術を活用した交流を続けるが、海外に中継するのは初めて。各地の医師の知識を共有化し、より難しい手術に取り組む試みだ。